

Title	戦略性の高い政策立案をサポートする事前評価の構築に向けて：欧州委員会のインパクト・アセスメントからの含意
Author(s)	野呂, 高樹
Citation	年次学術大会講演要旨集, 26: 90-93
Issue Date	2011-10-15
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/10077
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

1 F 0 5

戦略性の高い政策立案をサポートする事前評価の構築に向けて －欧州委員会のインパクト・アセスメントからの含意－

○野呂 高樹（財団法人未来工学研究所）

1. 問題の背景・意識

昨年度の発表では、欧州委員会のインパクト・アセスメントにおける委員会部局の主要な手続きステップ、Impact Assessment Board (IAB)、そして2009年に改訂されたインパクト・アセスメントのガイドラインのうち、特に社会的インパクト (Social Impacts) について考察した。

その後、筆者は科学技術機構の「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」に関する新しい研究開発プログラムの研究課題提案「事前評価の質的向上を目的とした欧州委員会における Impact Assessment の取組分析」に係る深掘り調査（以下、深掘り調査と略す）を実施した。今回はこの調査結果の概要を中心にしつつ、今後の我が国における展開についても述べたい。

2. 深掘り調査の概要

2. 1 調査の目的

平成23年度の事業提案公募に向けて、事前評価の質的向上を目的とした欧州委員会における Impact Assessment の取組分析に必要な研究開発体制やマネジメント体制を詰めるとともに、科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』への知見・知識集積のための措置、ならびに社会実装のための措置を具体的に検討することを目的とした。

2. 2 調査内容と結果の概要、結果からの含意

調査としては次の3つを中心に行った。

- ① Impact Assessment の全体的レビュー
- ② ニーズ調査
- ③ 各年・各政策領域における Impact Assessment 資料の整理

以下、各々の結果の概要や結果からの含意を記す。

① Impact Assessment の全体的レビュー

欧州委員会は、1970年代後期から RTD プログラムの評価に関わっており、評価の要件は、1980年代早期以来、RTD プログラムに関する立法部の各決議の中で規定されている。したがって、この30年間で、委員会サービス部 (Commission Services) は、RTD プログラム評価の分野でかなりの経験を積んでいる。

旧来のインパクト・アセスメントは、これまでも規制インパクト・アセスメント (RIA) や環境アセスメント等といった単一部門タイプとして実行されてきたが、2002年6月のインパクト・アセスメントに関する連絡文書の採択により、以前のアセスメント義務はすべて、2003年度以降は委員会作業計画による（現行の）インパクト・アセスメントに統合・代替された。

インパクト・アセスメントとは、以下の体系的な分析からなり、段階的に機能する。政策提案の立案過程を通じて疑問や課題を提起し処理するところの構造化された手法である。（図1参照）

- ・当該政策提案が扱う問題
- ・当該政策提案が達成しようとしている目的
- ・その目的を達成するために取りうる代替的選択肢
- ・その予想される影響
- ・相乗効果（シナジー）やトレードオフを含む相対的な利害得失

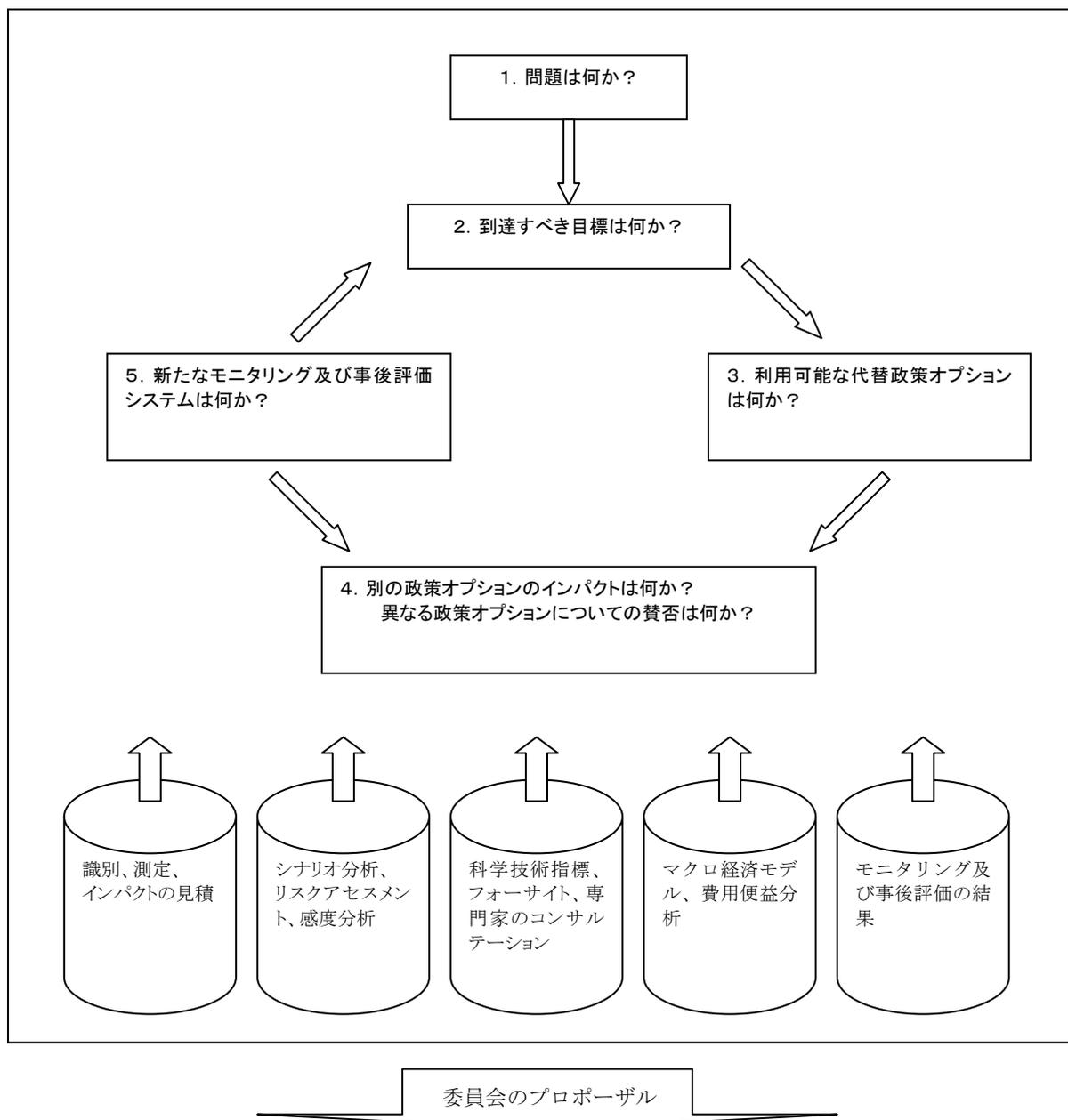


図1 欧州委員会におけるインパクト・アセスメントのプロセス

出典：科学技術振興調整費調査研究報告書「事前評価手法の我が国に適した質的改善」、(財)政策科学研究所、平成17年3月

インパクト・アセスメント理事会は、問題の定義、基礎シナリオ、または目的等の、インパクト・アセスメントの根本的な要素に対する深刻な懸念がある場合に、再提出を要求する。インパクト・アセスメント理事会のインパクトの分析に関する勧告では、エビデンスベース、行われた仮定及び使用された方法の信頼性等の幅広い問題点を扱っている。図2は、異なるカテゴリのインパクト全体にどのようにしてこれらの勧告が分布していたのかを示している。インパクト・アセスメント理事会は、経済的インパクト、社会的インパクト及び環境上のインパクトの分析に対する勧告を頻繁に行い、インパクト・アセスメントに対する統合された手法に合わせ、それが均衡のとれた分析を重要視していることを反映している。

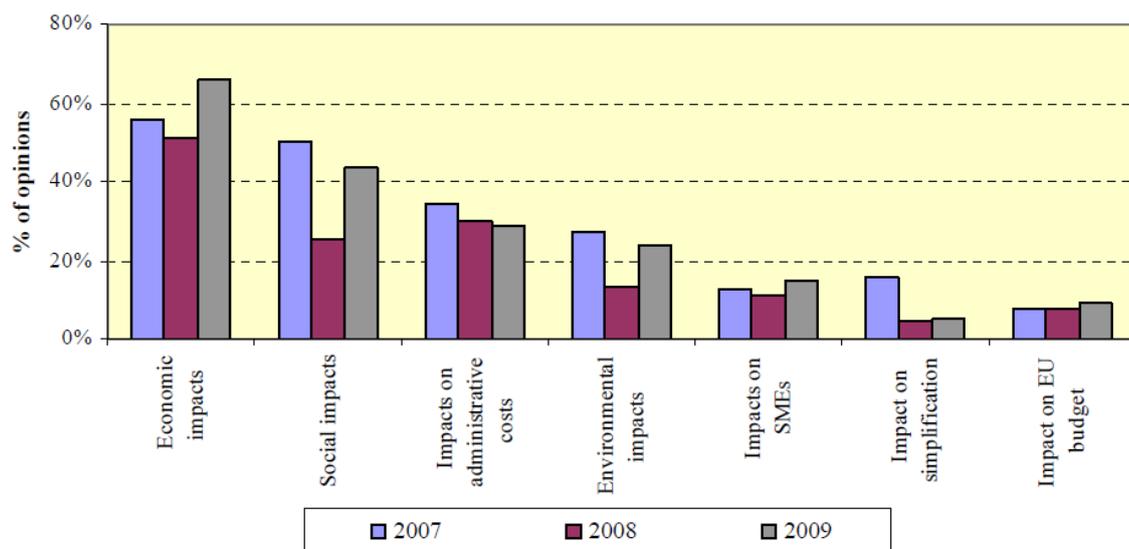


図2 インパクト・アセスメント理事会の意見書で提起された分析問題点

出典：Impact Assessment Board Report for 2009, SEC(2009) 1728 final, Brussels, 29.01.2010

② ニーズ調査

ニーズ調査として、検討委員会の実施、2011 AAAS Annual Meeting への参加、政策立案担当者等との情報・意見交換を行った。この中では、

- ▶ インパクト・アセスメントを含む事前評価の想定利用者は誰か？どこで使うか？がポイントになる。
 - ▶ プロジェクト・レベルではなく、プログラム・レベルに焦点を置くことが重要である。
- など大変貴重なご意見を頂戴している。

③ 各年・各政策領域における Impact Assessment 資料の整理

欧州委員会における Impact Assessment のサイトより、2003～2010 年における Impact Assessment 資料の一覧を年度ごと・政策領域ごとに整理した。ここでは、その中から 2003～2010 年における Impact Assessment 資料の件数を下記に示す。

年度	件数
2010	57
2009	83
2008	122
2007	98
2006	66
2005	74
2004	31
2003	21
合計	552

3. 今後の我が国における展開について

事前評価に関しては、我が国においても最近では規制をはじめとして研究開発プログラム等にも適用を進めているところであるが、定量的な指標づくりを含めて試行錯誤の状況と言える。研究開発評価システムの在り方に関する評価専門調査会検討ワーキンググループ（第2回：平成23年8月19日）においても、研究開発評価システムの充実に向けた検討項目及び論点について（案）の中で、事前評価に関して次のように指摘されている。（抜粋）

(1) 事前評価の強化とこれをベースとした一連の評価の実施

- ・技術は一流だが事業化に結びついていないというこれまでの反省を踏まえ、事前評価（アセスメント）の段階から、例えば、普及技術を目指すのか、トップ技術を目指すのかといった目標レベルを明確にするとともに、特に、応用・開発研究については、技術の実用化・普及までを念頭に置いた出口戦略を明確にしておく必要があるのではないか。
- ・プログラム等に対応した事前評価（アセスメント）から中間評価（モニタリング）、終了時評価（エバリュエーション）までの一連の評価過程と方法をあらかじめ公表し、それをプログラム等を推進する側、研究開発を実施する側、研究開発成果を受け取る側で共有しておくことが重要ではないか。
- ・事前評価（アセスメント）の段階で、プロジェクトやプログラム・制度における推進主体及び研究開発実施主体間の責任と権限について明確にしておき、これに基づいてその後の評価を実施する必要があるのではないか。また併せて、計画の見直し等軌道修正への対応のためのプロセスや権限についても明確にしておく必要があるのではないか。

欧州委員会におけるインパクト・アセスメントの取組は、2002年から試行的に開始され、ガイドラインの改訂も重ねられており、社会的インパクトについてはガイダンスや方法論のレビューなどが公表されているため、我が国にとって大いに参考になるものとする。

また、科学技術振興機構では、戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラムの提案募集をしたところであるが、戦略性の高い政策立案をサポートする事前評価の構築に向けて、この欧州委員会におけるインパクト・アセスメントの取組から学ぶべき点は大変多いものとする。

4. 主要参考文献・ウェブサイト

- ・ European Commission - Impact Assessment
http://ec.europa.eu/governance/impact/index_en.htm
- ・ European Commission: Commission Impact Assessment Guidelines, January 2009.
- ・ Impact Assessment Board: Report for the year 2009, 2010.
- ・ European Commission: COMMUNICATION FROM THE COMMISSION ON IMPACT ASSESSMENT, Commission Communication COM(2002)276, 2002.
- ・ European Commission: External Evaluation of the Commission's Impact Assessment System, 2007.
- ・ European Commission: Guidance for assessing Social Impacts within the Commission Impact Assessment system, 2009.